

2010.03.10：平成 22 年 予算審査特別委員会 区民環境分科会 本文

大野はるひこ

おはようございます。よろしくお願いいたします。

平成 22 年度の予算策定に当たりまして、本年度は緊急財政対策の中での予算編成となっておりますけれども、区民文化部、資源環境部、産業経済部より、それぞれ予算の策定に際しまして、本年度の予算の特徴並びに本年度の、特にご苦労されたと思うんですけども、ご苦労された点についてご説明をいただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

地域振興課長

それでは、平成 22 年度区民文化部の当初予算の特徴についてご説明させていただきます。

まず、区民文化部、区民文化費の平成 22 年度当初予算額は、74 億 3,668 万円余でございます。区一般会計当初予算額の 4.16%になります。平成 21 年度当初予算額との比較では、9 億 2,988 万円ほどの増、率では 14.29%の増となっております。

増額の主な内訳といたしましては、赤塚庁舎改築経費が 6 億 3,210 万円ほどの増、高島平温水プール改修経費が 10 億 9,828 万円ほどの増、赤塚庁舎開設に伴います維持管理経費が 4,505 万円ほどの増、戸籍法改正に伴う戸籍情報システムの改修経費が 2,958 万円ほどの増等でございます。

減額の主な内訳といたしましては、仲宿と清水各地域センターの改築工事完了に伴います改築経費が 6 億 2,904 万円ほどの減、成増アクトホールの音響、映像設備の改修完了等に伴います地域センターの維持管理経費が 4,575 万円の減、体育施設改修の完了に伴います体育施設運営経費が 9,147 万円の減となっているほか、美術館、郷土資料館の特別展事業終了によります管理運営経費が、合わせて 4,206 万円ほどの減となっております。さらには、緊急財政対策におけます板橋区文化国際交流財団助成金及び植村記念財団助成金の一部の削減、区民集会所の改修、赤塚庁舎の改築の一部延伸等の事業見直しを行い、予算の減額を図りました。

平成 22 年度当初予算は、緊急財政の中においても、安心・安全なまちづくりの根幹となる区施設の改築、改修をできる限り推進していくとともに、自治力UPを目標としました新たな取り組みとなる地域会議の発足の準備を進めていくほか、あたたかい人づくり、元気なまちづくりをテーマとし、ことし友好都市提携 5 周年を迎えますイタリアポローニャ市との記念事業の実施や、区民体育祭、東京荒川マラソンの継続開催等、文化芸術、国際交流、スポーツの分野においても、積極的な事業展開を図ってまいります。

また、各施設の運営におきましては、さらなる効率化を図りまして、事業の見直し、経費節減を徹底し、予算編成を行ったところでございます。

以上で区民文化部の当初予算の特徴でございます。

産業振興課長

それでは、産業経済費の 22 年度の特徴等についてご説明をさせていただきます。

産業経済費の平成 22 年度当初予算額は、15 億 9,900 万円余りで、区一般会計総額に占める割合は 0.9%でございます。昨年度は、当初予算で 1.1%でございましたので、0.2 ポイントほどの減となっております。また、対前年度比の数値の比較で申しますと、15.7%の減となっております。

増減の主な要因でございますが、まず増のほうでございます。新産業育成プラザの整備ということで、測定機器の購入費用等を 2,400 万円ほど計上してございます。また、にぎ

わいのあるまちづくり事業、商店街の活性化の事業でございますが、地域連携型モデル商店街ということで、蓮根地域の計画をしているところでございます。こちらが800万円ほどでございます。また、新規事業といたしまして、地域若者サポートステーションの事業、あるいは商店街のLED化の事業等を予定をしております。すみません、金額は、若者サポートステーションが200万円、それからLED化につきましては300万円でございます。

また、大きなものといたしまして、商店街の活性化事業ということで、プレミアムの商品券の発売、こちらが3,600万円ほど計上しております。そのほか、施設の改修費用といたしまして、工場ビルのほうの駐車場の改修工事が1,000万円ほど、それから伊豆高原荘のほうの改修工事が2,700万円ほどとなっております。

また、減のほうでございますが、一番大きな要因といたしましては、新産業育成プラザの用地の買い戻しの経費を21年度は計上いたしました。2億1,600万円ほどでございます。こちらが減となっております、大きく減少しております。また、にぎわいのあるまちづくり事業では、新聞報道でもありましたが、ハッピーロード大山商店街のほうでアーケードの改修とLED化というのを行いまして、これが5,000万円ほどかかってございます。そのほか、箱根のけやき荘の改修工事等で減が出ているところでございます。

また、農業費のほうでございますが、農業費は当初予算額は1億1,900万円余りで、前年度当初予算額と比較いたしまして、800万円、6.96%の減となっております。こちらは、今年度、地域事業として取り組みました農業振興対策経費のうち、地産地消農産物安心確保促進事業、こちらのほうが減となっているのが大きな要因となっております。

また、緊急財政対策ということで、全庁的に取り組みまして、産業経済部でも取り組みを行ったところでございます。

一つは、実施計画事業ということでありました新産業育成ゾーン、新産業育成プラザのかかわる備品の購入の予算を、次年度以降23年度以降に繰り延べたもの、あるいは私どものほうで新規事業ということでお願いをしておりました産業振興構想の改定の作業、こちらを1年間繰り延べするというような対応をさせていただいております。また、既定事業でも、施設の維持、補修の事業につきまして精査をいたしまして、繰り延べ等を行った結果、こういう形の予算の編成となっております。

以上です。

環境保全課長事務取扱資源環境部参事

それでは、資源環境部関係の予算編成の特徴につきまして、概要をご説明申し上げます。

部全体といたしましては、危機的な財政状況を背景にいたしました区の予算編成方針に基づきまして、環境基本計画の着実な推進を図ることを主眼としまして編成をさせていただきました。

歳出予算額でございます。部全体で85億480万円、前年度と比較いたしまして3億8,219万円の4.3%減となっております。この一番大きな要素としましては、ごみ等中間処理経費2億1,600万円の減でございます。そのほかといたしましては、職員人件費で7,200万円の減、三園中継所の維持管理経費で5,400万円の減となっております。

一方、歳入でございますが、平成22年度、5億8,017万円でございます。1,607万円の増、率にして5.9%の増でございます。これの大きな要因といたしまして、国の100%補助でございます地域環境ニューディール事業費補助金1,275万6,000円を、都を經由して確保しております。これによりまして、みどりの苑の省エネ改修に2年間にわたってとりかかることになってございます。

また、新エネ、省エネの普及啓発事業に当たりまして、国及び都から合計 625 万円の特定財源を確保いたしまして、これらを有効に活用いたしまして、事業展開を図ってまいりたいと思っております。

こうしたことから、厳しい財政状況の中ではございますが、「いたばし No.1 実現プラン」に掲げます緑と環境力UPの着実な推進を図る予算編成となっております。

以上、簡単でございますがよろしく願いいたします。

大野はるひこ

都区財政調整交付金、区税収入等の大幅な減少を含めまして、基金の取り崩しによつての、大変厳しい予算編成となっておりますけれども、このような状況が長引きますと、再び厳しい財政運営を余儀なくされることとなりますので、最小限の予算で最大限の効果が上げられる事業の実施とともに、区民の皆様方からお納めいただいた税金が、無駄に使われることのないようお願いをしたいと思います。どうぞ、よろしく願いいたします。

それで、まず初めに、環境についてお伺いいたします。

予算説明書のページ 71、1の(2)、今、参事からもお話ありました地域グリーンニューディール事業費補助金についてお伺いいたします。

昨年6月の第2回の定例会、そして先日の補正予算の総括質問においても、我が会派の杉田議員が質問をいたしました。そして、自民党の新環境政策プロジェクトチームで提案いたしました東京都の補助金を活用いたしました特別養護老人ホームのエコ改修については、みどりの苑の施設老朽化対策として、補助金を活用した省エネ改修の提案をさせていただき、実現することができました。昨年6月の国会において決定された補正予算による緊急経済対策で、かなり厳しい日程での応募と審査であったとお聞きしております。資源環境部初め、関係各部署の皆様のご迅速な対応に、心より御礼と感謝を申し上げたいと思います。

そこで、この間の経緯と、今年度、22年度の予算で1,275万6,000円の予算となっておりますけれども、歳入、歳出の執行体制、また省エネの効果等をご説明いただきたいと思います。

環境保全課長事務取扱資源環境部参事

それでは、この地域環境グリーンニューディール基金を活用しました、みどりの苑の省エネ改修に至りました経緯等を簡単にご説明をさせていただきます。

資源環境部としまして、国から全額支出で設けられた都の基金から支出された補助金の歳入の窓口となるものでございます。一応、確認でございますが、予算の概要の23ページ、44番をごらんいただきたいと思います。こちらのほうに、歳出について述べられてございます。こちらで、みどりの苑の省エネ改修ということがごらんいただけるかと思えます。この地域グリーンニューディール基金につきましては、昨年4月の下旬に環境省から、こういった基金が創設されるという情報だけはいたいていございました。また、6月3日でございますが、東京都からこの基金を創設するに当たり、活用するかどうかのアンケートがございまして、これにつきましては、応募する旨の回答をいたしたところでございます。なお、これを活用するにつきまして、庁内全部署にわたりまして、この活用について希望をとりましたところ、残念ながら1か所もございませんでした。そこで、一たん立ち消えになったわけでございます。

今、委員のほうからご質問ありまして、昨年6月の議会で、杉田議員から、みどりの苑の省エネ改修、都の補助金を活用してというお話でございました。そのご提案を

受けまして、早速東京都に諮りましたところ、残念ながら一般の省エネ改修では、この補助金活用できないということがわかりました。そうしましたところ、たまたまでございますが、当委員会の委員の中村委員のほうから、地域グリーンニューディール基金の活用はどうなっているのかというご質問がありました。そこで、庁内のほかに希望がなかったものですから、私どもこの活用できないかということで、再度仕切り直しまして、営繕課及び健康生きがい部などに働きかけをいたしまして、これに急遽応募することになりまして、この手続が6月18日で行われました。実際に、書類の提出期限、7月15日ということで、約1か月の間に、すべての設計見積もり等のあらあらを寄せ集めまして、それで審査に応募いたしました。そうしたところ、2か年で空調と給湯の改修、省エネ改修でございます、6,600万円の財源を確保することができたものでございます。これら、すべて100%補助でございます。

来年度は、初年度、1,750万6,000円、平成23年度で5,324万円ほど、合計6,600万円を確保できたものでございます。ちなみに、東京都で申し上げますと、23区で応募した区が16区21事業で、審査を通り済ませたのが13区14事業、合計額で4億5,700万円ほどということでございまして、板橋区の6,600万円は14.4%ということで、恐らく23区でもトップクラスの財源を確保できたと、こういうふうに認識してございます。

簡単ですが、以上でございます。

大野はるひこ

今後とも、機会をとらえて、補助金を活用しました省エネ環境対策等、資源環境部が率先して推進していただけますようお願いしたいと思います。ありがとうございます。

環境保全課長事務取扱資源環境部参事

1点、省エネの効果について答弁漏れいたしまして、すみません。

22年度分の工事におきましては、CO₂の削減効果8%、また23年度の工事におきましては、22%の削減ができるという、こういう予測でございます。大変失礼しました。

大野はるひこ

次に、ページ71ページの地球温暖化対策等推進事業費補助金300万円、ページ147ページの地球温暖化防止経費525万4,000円、この内容についてお聞かせいただきたいと思います。

環境保全課長事務取扱資源環境部参事

国の補助金に関しましては、太陽光発電、国土交通省経由からの補助金でございまして、45%の補助金に相当いたします。また、もう一点、東京都からの省エネ関係の補助金につきましては、そのほかの高効率給湯器やガス発電給湯器、あるいは燃料電池と、太陽光発電以外の省エネ機器の補助金でございまして、これは50%の補助でございます。

大野はるひこ

今、ご説明のありました太陽光発電、そして省エネ機器等の補助金なんですけども、昨年度、どれくらいの補助の申請があったのか、お聞かせいただきたいと思います。

環境保全課長事務取扱資源環境部参事

最終的な決算ベースでは、22年度分と同額となっております。同額でございます。

大野はるひこ

額は一緒だと思うんですけど、件数、どれぐらいの件数が、その補助を活用されたのかというのは、おわかりになりますか。

環境保全課長事務取扱資源環境部参事

まず、太陽光発電につきましては、86件でございます。都の補助を活用したそのほかの省エネ機器、太陽熱で4件、エコウィルで8件、エコウィルというのは発電給湯器でございます。それから、高効率給湯器エコキュートで114件、それからガスの高効率給湯器129件、燃料電池、これは年度途中で急遽予算をやりくりして入れたものでございまして5件、合計346件となっております。

大野はるひこ

申請なんですけども、各家庭から申請があると思うんですけど、やはり新築をするとか、建てかえをするとか、ガス給湯器等古くなったから取りかえるという際に要望があって、申請をされるのか。あと、板橋区からのそういう事業をやっていますよというのが、いろいろ「広報いたばし」等に掲載していると思うんですけども、やはり全体に行き渡っていないような感じがするんですが、その辺の周知方法もあわせてお聞かせいただきたいと思えます。

環境保全課長事務取扱資源環境部参事

これらの周知方法につきましては、今、ご案内のありました「広報いたばし」それからホームページ等で発信してございます。このそれぞれの機器によって若干異なるんですが、例えば太陽光発電ですと、板橋区が補助をしているということにつきましては、既にかなり業者さんに行き渡っておりまして、窓口に来られる方は、ほとんど業者さんが代行で来られる方が多うございます。そういうことで、かなり実際問題、これから漏れるということは考えられません。あと、新築、改築の話も、太陽光に関しましては、新築も改築もありますし、後づけでつけられる方、オール電化にかえられる方等々で、かなりそういう形で両方ございます。

そのほか、やっぱり給湯器に関しましては、後づけで古くなった給湯器を新しくするという場合が多いかと思えます。また、こういったガス器具等も、実際例えば東京ガスさんですとか、東京電力さん、こういったところで、かなり私どものこの情報を持ってPRを逆に代行していただいておりますので、区民の方にとっては、この補助を知らないで漏れてしまうということは一応考えられないようになってございます。一応、私ども、ホームページそれから広報でしっかりとPRしてまいりたいと思えます。

大野はるひこ

よろしく願いいたします、ありがとうございました。

大野はるひこ

それでは、予算の概要9ページの第14回東京荒川市民マラソン大会についてお聞きします。板橋が何も入っていないんですけど。

それで、一つ、ちょっとこれは私の間違いか、これちょっときょういただいているんで

すけど、13回になっているんですけど、この予算の概要で14回になっているのは、どっちが正解ですかね、13回でいいんですか。

(「来年度予算」と言う人あり)

大野はるひこ

すみません、よろしく申し上げます。ありがとうございます。

それで、来年の荒川市民マラソン大会の、来年というか、今度3月です、参加予定者数と、あと事業の内容に、何か特徴があるようなことがありましたら、お聞かせください。

スポーツ振興課長

今回のということでもよろしいでしょうか。

(「はい」と言う人あり)

スポーツ振興課長

今回の参加者の申し込み状況ですけれども、今のところで、1万8,000人の、トータルです、全部の種目を合わせまして、1万8,000人ほどのご応募をいただいております。

特徴ということですが、特段、今回新しい、この大会でもって新しく何かがあるということは、今回に関しては特にございませんが。

大野はるひこ

何か、聞くところによると、ローラースケート連盟の方が、何か5キロか何か、先導して走られるってことなんですけど、そういうのもやられるんですかね。

スポーツ振興課長

失礼いたしました。

その5キロの部に関しまして、ローラースケートによる先導というのをを行うっていうのを、新規で行う予定になってございます。

大野はるひこ

そこで、第12回のマラソン大会の、先日、資料要求をいたしまして、いただいたものを拝見すると、収入が1億4,500万円強ですね。支出が、1億2,100万円なんですけども、この2,400万ぐらい収入というか残っているんですけど、そのお金というのはどこに行くのか教えていただきたいと思うんですけども。

スポーツ振興課長

こちらにつきましては、大会、実行委員会形式で行っておりますので、実行委員会の口座のほうに、現在入っているという状況でございます。

大野はるひこ

そうすると、13回の収支報告の繰越金には、この2,500万円が載ってくるということでよろしいわけですね。収入の。

スポーツ振興課長

そのようになります。

大野はるひこ

それで、この大会運営マニュアルなんですけど、私も体育指導員協議会でお世話になっていたことがあるので、これをいただいて、すばらしい内容のものだなと本当にそれは思うんですけども、これつくるのに、幾らぐらいの予算がかかるのか教えていただけませんか、1冊。あと、何冊つくるのかお願いします。

スポーツ振興課長

印刷部数ですけども、600部ほどつくっております。

それで、費用ですけれども、後ほど調べさせて、回答させていただきます。すみません。

大野はるひこ

後ほどよろしく願いいたします。

それで、思うんですけども、これ本当、これを見れば最初から最後まですべてが書かれているので、すごくわかるんですけども、各板橋区以外に、東京陸連とか青少年委員とか体育指導委員とか、あとボランティアの方とか、それぞれ説明会が開催されていて、これを1人1冊、多分配られていると思うんです。私もいただきましたので、ですからもし、これ大変必要なものだというのはわかるんですけども、それぞれ各担当の部署に皆さんつきましますので、全体をわかるということに関しては、責任者及びその上の方が持っているだけで、各団体の、それぞれ担当の部署につく方には、その仕事内容が明記されているものをお配りしたほうが、これせっかくもらっても、また終わったら再利用というか、捨てるといったらおかしいですけど、廃棄するというか、もったいないと思うんですよ。ですから、その辺のところを、よくご検討いただいて、今後そういった形で進めていただけると、環境というか、お金の無駄にもならないと思うので、ぜひご検討いただきたいと思うんですけども、その辺についてのお考えをお聞かせいただきたいと思います。

スポーツ振興課長

マニュアルの件でございますけど、現在でも、全員にそのマニュアルそのままお渡ししているというようなことはしておりませんで、必要に応じて抜粋してお配りをしていることは行っております。また、さらに必要に余り余計な部数を刷らないような形で検討させていただきたいと思います。

大野はるひこ

ぜひ、効率的にお願いいたします。

それから、各ポイントに救護所があるんですが、そこにAEDが設置されていて、これも何かあった時のためには非常に効果的であるというふうに思うんですけども、大会が終わった後のAED、これはどこに行くのかお教えいただけますでしょうか。

スポーツ振興課長

AEDにつきましては、リースということになってございます。

大野はるひこ

それと、やっぱり、またしつこいんですけども、すえよし委員もおっしゃっているんですけど、ぜひ今後の検討材料として、名前を板橋という名前を、しつこくて申しわけない

んですけども、全面に出していただくような形をお願いしたいと思います。

それと、もう一つなんですけども、このパンフレットにも、後援ということで、各教育委員会、各区の後援ということになっていきますけども、今その連携というのは、どういったことで連携をとられているのか、お聞かせいただきたいと思うんですけども。お願いいたします。

スポーツ振興課長

まず、名称につきましては、今回、13回大会ということで行わせていただきますけれども、次回大会に向けましては、今回大会の運営部会を近日中に開催いたしますので、その場において、正式に提案をさせていただいて、ご了承を得て、14回といいますか、来年の大会に向けて変更するという方向で、今進めてございます。

それから、各区の後援ということなんですけれども、実質的には、コースの沿線沿いに施設、運動場とかトイレとか、そういったものがございますので、そこら辺の使用について、各区のご協力をいただいている状況でございます。

大野はるひこ

ぜひ、よろしく願いいたします。

それと、少し話が違うんですけども、命の大切さということで、水に対する事故防止という観点から、これちょっと教育委員会のほうになってしまうと思うんですけど、少し飛ばしていただいて、小学校では着衣水泳といって、水の事故を防ぐために、衣服を着てプールに入って、その訓練をしたり、あとライフセービングの方が教室を開かれたりして、水に対する事故の対応ということで、対応策をとっているんですけども、例えばなんですけど、区立の体育館のプールで、子ども以外にでも、大人もやっぱりレジャーや何かで水に接する機会もあると思うので、そういったプールでライフセービング教室の開催を、これはもちろん参加費をいただいてなんですが、今後の検討課題としてお考えいただきたいと思うんですけども、ぜひご見解をお伺いしたいと思います。

スポーツ振興課長

今、具体的に検討しているという状況ではございませんけれども、ご意見ございましたので、その辺も含めて検討させていただきたいというふうに思います。

大野はるひこ

ぜひ、よろしく願いいたします。

それで、次に予算の概要の31ページ、コミュニティ活性化事業支援の5)、コミュニティ助成事業の助成と、あと19番のコミュニティ推進のコミュニティ組織推進経費助成というのがあるんですけども、この違いについてお聞かせいただきたいと思います。

地域振興課長

まず、コミュニティ活性化事業支援でございますけれども、こちら、概要の31ページの右側に出てございますように、各地区まつりとか地区運動会とか、こういったようなものを実施していただくための経費というふうになってございます。

19番のコミュニティの組織推進につきましては、各支部で行う研修だとか、そういったものに助成を行ったりしてございます。そのほか、町会、自治会で、ホームページを作成するときなどに、私どもで助成を行うというような事業になってございます。

大野はるひこ

今、課長が言われたのは、16番の5)を私お聞きしているんですけど、5)です。何か、10割補助というふうにお聞きしているんですけど。

地域振興課長

失礼いたしました。

こちらは、16番の5)、コミュニティ助成事業の助成ということで、こちら、今回宝くじの助成を使いまして、町会自治会で山車を購入するというので、おみこしじゃなくて山車です、引っ張るほうでございますけれども、そちらの助成経費が含まれているというものでございます。

大野はるひこ

山車というと、どこかもう地区が決まっているんですか。これから購入するところに助成する、もう決まっているんですかね。

地域振興課長

こちらは、常盤台のほうの町会で、山車を新たに買い直すということでございまして、こういった助成事業が行われているということで、東京都を通して、区を通してという形で助成を行うということでございますが、もとは自治総合センターという宝くじの普及活動という形でございます。

大野はるひこ

これは、例えば抽選とかで当たるんですか、それとも山車とおっしゃりましたけど、おみこし、町会でありますよね、ああいった助成もしていただけるんですか。

地域振興課長

助成の対象事業の内容ということになるかと思えますけれども、こちらは、コミュニティ活動に必要な施設または整備に関する事業ということで、例えば、私ども今回お願いしております地域のまつりに関する備品の購入とか、修繕も可能ということでございます。

大野はるひこ

それと、19番の2)の町会・自治会ホームページ作成助成というふうに出ているんですけども、これは具体的に、区のほうではこういったことを町会自治会に対して支援といったらおかしいんですけども、していただけるのか、内容をお聞かせいただきたいと思えます。

地域振興課長

こちらは、町会自治会が、ホームページを立ち上げたいといったときに、私どもが機械本体ではなく、それに伴います、例えば、研修を行うとか、そういった準備のためにその助成を行わせていただいております。それについて、各町会自治会が独自に自分たちのホームページを立ち上げているというところでございます。

大野はるひこ

今現在、そういった町会自治会は幾つぐらいあるのかお教えいただけますか。

地域振興課長

すみません、ちょっと後ほど。

大野はるひこ

それで、助成金額というのは幾らぐらい、上限が決まっていたりするんでしょうか。

主査

後にしますか、今のも。

地域振興課長

あわせて、後ほど。

大野はるひこ

これも、今若い方がやはり町会に興味を持って入られたり、行事には参加していただけるんですが、町会のことに対して理解が少ないので、ホームページを作成して見ていただくと、町会の内容がよくわかっていただける事業だと思imasuので、ぜひ今後とも普及、広められるように推進していただきたいと思imasu。

地域振興課長

現在、2町会でございます。宮本町会と、新河岸町会がホームページ作成をしております。たしか、12万円が上限という形でございます。

大野はるひこ

ありがとうございます。

それと、21番の地域会議運営ということで、地域会議が今度始まるということでお聞きしているんですが、先日、構成メンバーについてはお聞きしたんですけども、具体的に、こういった方向性で持っていかれるのかと、もう一度再度お聞かせいただきたいと思imasu。

地域振興課長

まず、組織につきましては、4月からということで、私どものほうに担当係長を設置させていただきます。

それで、NPO関係、ボランティア関係の職員が、今、庶務のほうについてございますけれども、そちらのほうの事業もあわせて、一緒に行っていこうというふうに考えてございます。

それで、具体的に地域に対してどういうことを行うかと申しますと、地域会議の設立を目指して、当面、22年度につきましては、地域情報連絡会というものを開催していきたいと思imasu。こちらにつきましては、将来的に機運が高まって、地域会議に結びついていけばいいなというところでございまして、いきなりちょっと地域会議を開催するというのは、独自にはできないものですから、まずは地域情報連絡会を開催していきたい。その際には、事務局につきましては、地域センターのほうで事務局を担っていききたいというふうに思imasu。将来的には、そういった手が離れまして、独自に地域会議

が独立していただいて、地域のいろいろな課題とかそういったものを解決していただけるようになっていくというのが理想でございますけれども、当面は、その地域情報連絡会におきまして、そういったいろいろな職種の方々、または団体の方々とお話し合いを十分に持っていただいてから、そういったいろいろな課題の提案だとか、解決に向けての提案だとか、お話をしていただきたいと思いますというふうに思っております。

大野はるひこ

ありがとうございます。

スタートは、その情報集めというか、団体の方も来ていただいてスタートということになっていくわけなんですけども、今、課長がおっしゃられました事務局は地域センターの方がなっただけということ、これも非常にいいことだと思います。

まとまっていくというか、それが今度、もしもそれがうまくいって、やはり事務局の機能は地域センターの方に担っていただかないと、運営も厳しいと思うんですけども、やはりそういった場所もなければ、やっぱり動けるといって、地域振興ですから、地域センターの方がやっぱり事務局、窓口といたらおかしいんですけども、そういったことはやっていただくような体制をとっていただいたほうがいいと思います。

それと、支部や青健と同じような形態にならないように、せっかく新しく立ち上げられるものですから、メンバーも恐らく今の段階でいくと、同じような方が集まれる可能性が高いと思うんですけども、ぜひ、この地域会議においては、ふだん町会や地域のことに余り来たくても来れないような方の意見も聞き入れるような形での運営をお願いしたいと思いますけれどもいかがでしょうか。

地域振興課長

おっしゃるとおり、今までの既存の組織との屋上屋を重ねるといっていいのでしょうか、そういったような形ではございませんで、既存の組織はそれで動いていただく。それで、ただこちらはそういった方々のいろんな広い意見をやはり聞いていきたいということでございますので、今までの団体以外にも、商店の方々とか、事業主の方々とか、そういった方も含めて、なるべく多くの方々に参加をしていただいて、広く意見をお聞きしたいというところでございますので、今後こういったものに体制づくりも含めまして、来年度早々にもう動かないといけませんもの、十分に注意を払ってやっていきたいというふうには思っております。

大野はるひこ

ぜひ、よろしく願いいたしたいと思います。

私も、桜川地域の青健の委員とか、町会でも役員をさせていただいているんですけども、若い方、なかなかいないんですけども、町会やそういった支部、青健は高齢化しているというんですけども、やっぱりその方たちと一緒にやっていると、年をとっているとか、そういう感じはしません。確かに、年齢上の方多いですけど、やっぱり地域に対して熱い方もいらっしゃるし、事業に関してもマンネリ化しちゃっている部分もあると思うんですけども、やっぱり、その中で皆さん知恵を出し合って、一生懸命やっている部分もありますので、そしてあと、支部になりますと、町会同士のコミュニケーションも、いろんな行事やイベントをやることによって親睦も深まってくるというふうに私もつくづく実感しておりますので、ぜひその事業等含めて、また地域会議も新たに発足されるということで、ぜひその二本立てでこの地域が活性化するようにお願いしたいと思います。

ぞ、よろしく願いいたします。

大野はるひこ

プレミアム商品券についてお伺いいたします。

21 年度に発行したプレミアム商品券についてはすべて完売ということでこちらも書いてあるんですけども、昨年 10 月の販売数を見ると 12 万 1,000 枚強で 33 万枚残っているんですけども、これが売れたということなんですけども、それはこれで大変いいことだろうと思うんですけども、直近の回収率がわかれば教えていただけないでしょうか。回収率です。

産業振興課長

昨年は 10 月に販売をした 5 億 5,000 万円につきましては若干残りが出まして、その分につきましては年末に各商店街で販売をしたという経緯でございます。

現在の回収率でございますが、商店街連合会のほうで聞いているところによりますと、99%を超えているというふうに、

(「昨年」と言う人あり)

産業振興課長

すみません、今まで発行したものの全部含めまして 99%という。

大野はるひこ

それで、ここにまだやはり未定と書いてあるんですが、発売時期と発売方法等はまだわかっていないですか、もしわかっていれば教えていただきたいんですけども。

産業振興課長

失礼しました。今 99%と申し上げたのは、一昨年度発売をした 1 億円の分でございます。申しわけございません、訂正させていただきます。

大野はるひこ

今の質問で、回収率というのはわからないですか、まだ、直近ので構わないんです。

(「5 億 5,000 万のね」と言う人あり)

大野はるひこ

ええ、大体で構わないんですけども。

産業振興課長

申しわけございません、ちょっと手元にございません。

主査

では、後で資料で。

大野はるひこ

後で資料提出をお願いします。それで、こちらまだ発売日は未定ということなんですけども、まだ未定ですか、発売方法等もしわかれば教えてください。